



中島

田口

津本

二十年度 施政方針を問う

津山誠心会議

代表質問者 津本辰己

質問 ↓第四次総合計画の農山村地域振興策の進捗と今後の展開は。

答弁 ↓中山間地域が市の五割強を占めており、この地域の活性化を図り、県の施策と連携し総合計画の見直しを行い事業推進を図りたい。また、農地保全や経営の合理化と所得の向上を図っており二十年の目標値は超えるものと考えており、継続事業の推進はもとより、耕作放棄地の解消、地域特産品の開発、高付加価値型農業の推進に努め、農業振興を図っていく。

質問 ↓地域づくりと体制整備は。

答弁 ↓地域づくり体制として市民との協働による住民自治協議会方式による、限界集落等の交通手段と生活物資の確保、高齢者の訪問活動等の集落機能の再編を図りたい。また、地域の伝統文化遺産を地域づくり活性化資源として活用している地域に制度的に支援する方法も検討したい。

質問 ↓まちづくりと中心市街地活性化

化基本計画の策定と運営は。

答弁 ↓アルネを再生し、商店街を再生することが、中心市街地の活性化につながる。しかし、アルネ問題の反省を生かす上でも、本市の実情に見合った再生、活性化の方策について検討する委員会を設置し、全市民的な合意形成を図っていきたい。

質問 ↓クリーンセンター建設の進捗は。

答弁 ↓一部事務組合設立に向けて、七市町村と慎重に協議をしているが、各市町村とも厳しい財政状況下で六回の協議を経て、建設については人口割、運営についてはごみ量割、搬送は七市町村で負担、周辺整備のうち、全体の受益に関するものは、七市町村での負担を検討することとしている。また、一部事務組合については二十一年度の早い時期の設立を目指す。

質問 ↓障害者施策の現状と対応は。

答弁 ↓障害者の就労支援として企業や職場の理解を得るための広報活動、就労支援相談を進めている。療育の現状は、待機児童が七十名ほどいるが、二十年度より療育指導人員の増員を図り解消される。

質問 ↓放課後児童クラブの運営改善と新設は。

答弁 ↓市がモデル予算を示し、約半数のクラブで保護者負担の見直しが行なわれ、約三分の一のクラブで指導員の待遇改善が行われた。児童クラブが設置されていない学区についても早期の開設に向けて支援していきたいと考えている。

質問 ↓幼保一元化対応は。

答弁 ↓平成二十年二月に津山市幼児教育検討委員会を立ち上げ、総合的な幼児教育の検討について諮問した。一元化については、その答申を受け、方針を決定するが、保育も教育と考えており、津山方式で検討していくこととなる。